

2024年11月10日

「見えないものを待ち望む」

ローマの信徒への手紙 8:18-25

早川 真牧師

今朝与えられた聖書の箇所ではパウロは、私たちが生きる現状には、苦しみがあることをはっきりと述べつつも、それは将来与えられる栄光に比べると取るに足りないものだと言っています。

神は人間を愛し、またご自分の創られた全ての被造物をも愛しておられます。それ故に希望を与えられました。その希望とは、キリストが再び来られる時、全ては新しくされ、共に産みの苦しみをしている被造物も、栄光に輝く自由に与ることができるという希望です。

私たちは目に見えるものに希望を見いだすことが多いものです。人が多ければ組織の将来は安泰だと思うし、お金が多ければ安心します。しかしパウロはここで、目に見える希望は本当の希望ではないと語っています。そして本当の希望は目に見えないものを、忍耐をもって待ち望むことなのだと教えています。

今朝の説教題である「見えないものを待ち望む」とは、神の言葉による約束を待ち望むということです。そして、今朝私たちに語られた神の約束とは、目に見える世界がどれほど悲惨な状況にあっても、それは神の意志によってそうされているのであって、必ず今の苦しみにはるかに勝る栄光を与えてくださるということです。

やがて私たちの体が贖われ、霊の体を与えられて、私たちと共に産みの苦しみを味わっている天地万物と共に栄光に輝く自由にあずかれる日が来るという約束を、教会創立記念のこの時に改めて覚えたいと思います。時に見えるものにのみ心奪われ、悲嘆にくれ、悲痛な思いで歩む私たちに、見えないものを待ち望む、神の約束に立つ信仰を与えられたいと切に願うものであります。